



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 2年12月25日

さすが“たくまっ子”

校長 菅原 透

激動の令和2年も学校生活最終日を迎えました。初めてであろう経験がたくさん…。短い夏休み、水泳なしの夏、半日の運動会、無観客の学習発表会、前を向いてお話ししない給食…。それでも、潤いのある生活を求めて最大限がんばった子ども達。いっぱいほめてあげたいです。

さて、今年の冬は雪の羽振りがよい。本校業務員さん曰く「この雪は去年降るはずだった雪ですよ。」なるほど、そう言えば、去年は雪かきをした覚えがないほどの少雪。犬は喜び庭かけまわるの如く、今年は、雪化粧したグラウンドで、たくさん子ども達が群れ遊んでいます。

その雪にかかわるエピソードを一つ。本校は、子ども達が自主的に昇降口の雪かきをする伝統があります。ボランティア委員会が中心となり、それはそれは一生懸命やってくれます。先日、その作業終了時にこんな声が聞こえてきました。

「橋本さん、ありがとうございます！」業務員さんもいっしょに作業をしていたのですが、終わった時に6年女子が言った言葉です。雪かきをしている子ども達に「ご苦労様！ありがとうございます！」と職員がよく声をかけます。でも、ボランティアに取り組む子ども達から、大人に向けて「ありがとうございます！」が出たのにビックリ。子どもからすれば、大人に手伝ってもらったと言う感覚なのかもしれません。心がぽっと明るく温くなるすてきな瞬間に立ち会いました。「思いやり名人」そのものですね。心の育ちが嬉しいです。

心が温くなるエピソードをもう一つ。裏面にもありますが、年長さんを迎えての5年生との交流会での出来事。いっしょに楽しく遊ぼうと、5年生の子ども達が用意周到、準備をしたの会でした。一生懸命世話をして、たくさんの笑顔が生まれました。それだけでもほっこりしていたら…。フォークダンスのマイムマイムの時です。体育館に班ごとの8つの輪ができていました。みんなで踊り続けていたら、だんだん、輪の数が少なくなっていったのです。4つになり、2つになり、最後は大きな1つの輪になりました。それは、子ども達が自ら、隣の班と手をつなごうと働きかけ、次々と連鎖して実現した奇跡でした。感動しました。よく言われる“心を一つに”が、見事に体现されたのでした…。

2つの例はどちらも些細なことかもしれませんが、でも、心がポカポカとなる言葉や行いが、校内で確実に積み上げられていたのです。この、無垢で優しくてあったかい荒砥小学校の子ども達は、やっぱりめんごい！と再実感しました。今年の嬉しいしめくくりとなりました。

令和3年はどんな年になるのでしょうか。子ども達に明るい未来が拓ける、希望に満ちた良い年になりますように。皆様より頂戴しましたご支援に、心から感謝申し上げます。良いお年をお迎えください。

